

テーマ	数と計算領域におけるターミノロジーの国際比較研究
発表者	岸本忠之（富山大学），礪田正美（筑波大学），Diego Solis Worsfold（筑波大学），小椋知子（元 JICA シニア海外ボランティア）
指定討論者	馬場卓也（広島大学）
趣旨及び概要	<p>数と計算領域における理解研究では，主にその概念自体が研究対象とされてきたが，数と計算に関するターミノロジーは，児童がインフォーマルな知識に基づいて構成するターミノロジーと必ずしも一致しない．このことは，「数学と言語」として，1つの言語を対象に研究され，一定の成果が得られている．一方，言語特性に着目した研究はほとんど行われていない．すなわち，これまで「教育課程や教科書に記述された意味でのターミノロジー」と「児童がインフォーマルに構成したターミノロジー」の2者関係で研究されてきたが，「教育課程や教科書に記述された意味でのターミノロジー」，「児童がインフォーマルに構成したターミノロジー」「言語特性によるターミノロジー」の3者関係としても研究する必要がある．リサーチクエスチョンは「数と計算領域における言語特性から生ずるターミノロジーの不一致が児童の概念理解をどのように妨げているか」である．</p> <p>この部会では，(1)わが国の数と計算領域におけるターミノロジーを視点にした問題の所在，(2)各国教育課程スタンダードと教科書における計算領域のターミノロジーの比較，(3)コロンビアと日本の数と計算領域の相違比較，(4)8 ヶ国登壇者によるオンライン授業を例にしたターミノロジーの共有困難性を議論する．</p>